

# 農家経済は厳しい

—54年度農業観測の修正見通—

農林水産省大臣官房  
調査課

高橋 善一

農林水産省は、昨年12月、昭和54年度農業観測修正見通しを公表した。

## 1. 農業生産

54年度の農業生産は、耕種生産が米の減少等で減少(1%程度)となるが、畜産生産が、増勢は鈍化するものの、引き続き増加(4.5%程度)することから、全体では、前年度に比べ1%程度増加すると見通される。なお米を除く農業生産は、4%程度の増加が見込まれる。

(耕種生産) 米は引き続き、作付面積が減少したものの、作柄が良かったことから5%の減少にとどまった。麦は転作等の推進により37%増加し、果実は、みかん、りんご等主要品目で増加し、野菜も全体として増産が見込まれ、また、大豆、かんしょ、てんさいは、ほぼ前年産並み、たばこ、茶は前年産を下回ると見込まれる。

(畜産生産) 牛肉生産は、伸びが鈍化し、年度間では前年度をわずかに上回る程度と見込まれる。豚肉生産は、前年度に続いてかなりの程度増加、ブロイラー生産もやや増加すると見込まれる。生乳生産量は、伸びは鈍化してわずか、ないしやや増加、鶏卵生産は、前年度並み、ないし、わずかに増加する程度とみられる。

## 2. 農産物価格

54年度に入ってから農産物価格は、4~6月間には前年同期比3.6%上昇のあと、7~9月間には同1.6%の下落となり、上期を通じては同1.1%の上昇にとどまった。下期についてみると、以下のとおりである。

(農産物価格) 豚肉が前年同期をかなりの程度下回り、ブロイラーがほぼ前年同期並みとみられる一方、牛肉は堅調に推移し、鶏卵は、前年同期をかなり上回ることなどから、畜産物全体ではわずかな上昇となる。

(果実・野菜) 果実の価格については、みかんはかなり、ないし大幅に、りんごはかなり、共に収穫量の増加によって、前年を下回るとみられる。秋冬野菜の価格については、台風の被害もあって、収穫量の減少が見込まれることから、前年を上回るとみられる。

以上から、54年度の農産物生産者価格は、需給が緩和と基調にあること等を反映して、前年並みないし、わずかな上昇程度と見通される。

## 3. 農業資材価格

54年初以降、農業生産資材の農村価格は、原油値上げ、円安傾向、一般卸売物価の上昇等の影響から、月を追って騰勢が強まっているものの、54年5月まで、前年同期を下回って推移したため、54年度上期は、前年同期比2.0%の上昇にとどまった。

下期の価格①飼料は原材料輸入価格の上昇で、後半には上昇するとみられる、②肥料は海外原材料価格の動向等から、年度末には強含みになるとみられる、③農業機械は上昇傾向が続くとみられ、④農薬は55年度販売価格引き上げ等から、上昇傾向が続くとみられる。

## 4. 農家経済

54年度を通じた農業所得については、粗収益面、農業経営費面等の動向からみて、全国1戸当たり平均でほぼ前年並みと見込まれる。一方、農外所得は、一般賃金の

### 昭和54年度農業観測修正見通し総括

	指数 (50年度=100)		対前年度増減 (Δ)率(%)		54年度見通し(前年度対比)	
	52年度	53	52年度	53	当 初	修 正
農業生産	104.8	106.0	7.7	1.1	ほぼ前年度並み	1%程度増加
農産物価格	108.7	113.4	Δ 0.7	4.3	米、麦を除く総合では ほぼ前年度並み	米、麦を含め前年度並み ないしわずかに上回る
農業生産資材価格	107.1	104.4	2.4	Δ 2.5	前年度をわずかにいし やや上回る	やや上回る

動向等からみて、ほぼ前年度並みの伸びと見込まれる。

以上の農業所得と農外所得を合わせた農家所得は、前年度に比べやや増加するが、前年度の伸び(5.9%)に比べ鈍化しよう。このように、54年度の農家経済は、引続き厳しい状況が見込まれる。

### 農産物価格と農業資材価格の動向

